

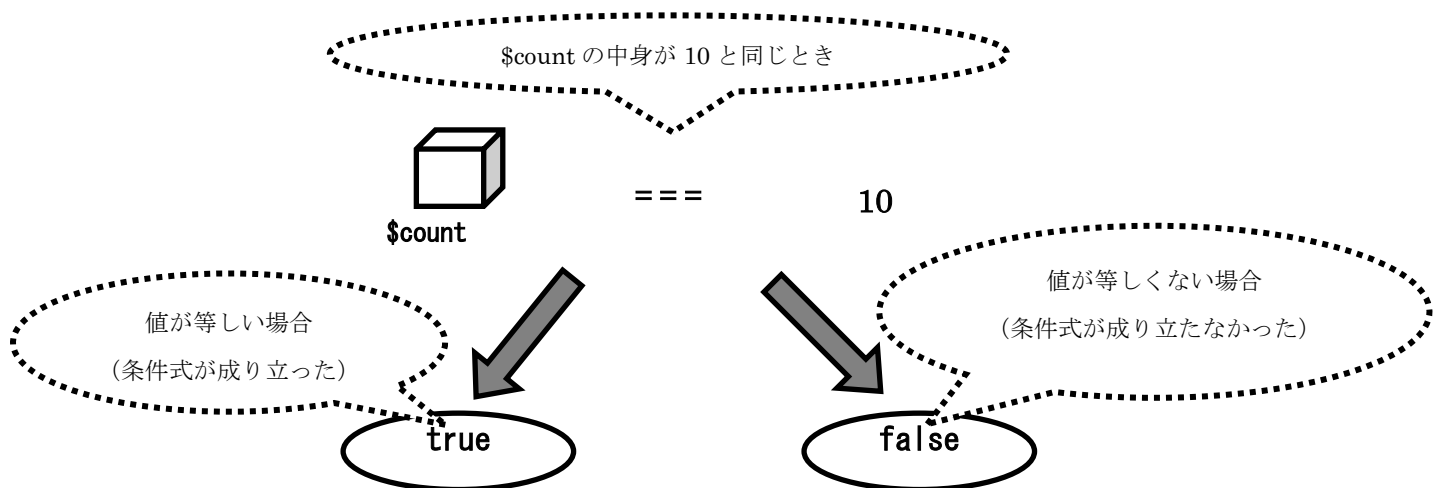
# 条件分岐

## ▼条件分岐

条件分岐 書式①

```
if(条件式) {  
    //条件式の評価結果が true の場合の処理  
}
```

条件が成り立つか成り立たないかについて論理値 (**true** または **false**) で表します。



条件式は下記の比較演算子を使用して条件を作成することも可能です。

比較演算子	
演算子	使用例
<	\$num < 100
<=	\$num <= 200
>	\$num > 0
>=	\$num >= 0
==	\$str == "success"
!=	\$str != "success"

#### 条件分岐 書式②

```
if(条件式){  
    //条件式の評価結果が true の場合の処理  
}else{  
    //条件式の評価結果が false の場合の処理  
}
```

#### 条件分岐 書式③

```
if(条件式①){  
    //条件式①の評価結果が true の場合の処理  
}elseif(条件②){  
    //条件式①の評価結果が false で、  
    条件式②の評価結果が true の場合の処理  
}
```

#### 条件分岐 書式④

```
if(条件式①){  
    //条件式①の評価結果が true の場合の処理  
}elseif(条件②){  
    //条件式①の評価結果が false で、  
    条件式②の評価結果が true の場合の処理  
}else{  
    //条件式①、②の両方とも false の場合の処理  
}
```

#### ※補足

- else 文は必ず if 文の最後
- elseif は if 文の後ろであれば、複数記述可